

新むつ小川原株式会社は、むつ小川原開発地区及び周辺の現在の姿や立地企業・団体の活動について皆様にお伝えするため、視察いただいた方々の感想や立地企業からの近況報告などを掲載した「むつ小川原だより」を発信しております。

第9回目は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録推進に専門家委員会委員長としてご尽力されました早稲田大学の菊池徹夫 名誉教授からの寄稿をお届けいたします。

【寄稿】「北海道・北東北の縄文遺跡群が、ついに世界遺産に！」
早稲田大学 菊池徹夫 名誉教授

津軽海峡を挟んだ北と南、つまり北海道南部と東北北部3県にある縄文時代の17の遺跡群が、昨年7月、正式にユネスコの世界文化遺産に認定・登録されました。暗いコロナ禍のなかで、とても明るくうれしいニュースですね。

縄文時代といえば、日本史の教科書を思い出していただきたいのですが、日本列島に大陸から米づくりと金属の技術が伝えられて始まった弥生時代の前、つまり、まだ文字記録の無い先史時代で、1万年以上続いた長い石器時代です。

ピラミッドや万里の長城、あるいは法隆寺といった「分かりやすい」世界遺産ならともかく、このように「地味」でなかなか理解しにくい縄文の遺産を、よくぞ世界遺産の仲間入りさせてくれたものと、地元の方々の努力はさることながら、ユネスコの見識にも今さらながら敬意を表しています。

さて、今回登録された資産にはどんな遺跡があるか、いくつか言えますか？ まず青森県が多く、大平山元(おおだいやもと)遺跡、田小屋野(たごやの)貝塚、二ツ森(ふたつもり)貝塚、三内丸山(さんないまるやま)遺跡、小牧野(こまきの)遺跡、大森勝山(おおもりかつやま)遺跡、亀ヶ岡(かめがおか)石器時代遺跡、是川(これかわ)石器時代遺跡、それに関連資産として長七谷地(ちょうしちやち)貝塚。北海道では垣ノ島(かきのしま)遺跡、北黄金(きたこがね)貝塚、大船(おおふね)遺跡、入江(いりえ)貝塚、高砂(たかさご)貝塚、キウス周提墓群(しゅうていぼぐん)、それに関連資産の鷲ノ木(わしのき)遺

跡です。そして岩手県は御所野(ごしょの)遺跡、秋田県は伊勢堂岱(いせどうたい)遺跡と大湯(おおゆ)環状列石です。

このうち青森市の三内丸山遺跡は特に有名だからご存じでしょう。竪穴式の建物や太い6本柱などが印象的です。でも実際に発掘で出てくるのは、ほとんどの場合、地面に掘られた大小の穴です。これは三内丸山遺跡だけの話ではなく、縄文の集落跡ではだいたいそうなのです。

ただし、大湯環状列石の有名な「日時計」をはじめ、大森勝山、小牧野、伊勢堂岱それに関連資産の鷲ノ木遺跡などでは整然と並べられた列石があり、垣ノ島やキウス周提墓群などでは特徴的な盛土遺構などが見られますから、ぜひご覧ください。

ところで、縄文文化は日本列島全体に広く分布するのに、今回はどうしてこの地域の、しかも17遺跡に限られたのでしょうか。これには、じつはいくつかの理由があるのですが、ともかくこの地域こそは、日本の縄文文化の中核の地といってよく、縄文時代の最初期から終末期まで各種の代表的な遺跡が揃っていて、古くからよく調査・研究されているうえ、すべてが良好に保存され、国の指定史跡となっていること、などがその主な理由といってよいでしょう。

小川原湖に一番近い七戸町の二ツ森貝塚ひとつを見ても、列島全体の中でもとりわけ生物多様性に恵まれたこの地域で、縄文人たちが自然環境にうまく適応して暮らしていた様子を、訪れる人々によく物語って



くれます。この貝塚は太平洋に続く小川原湖西岸の標高約30mの段丘上、平坦部の居住域を取り囲むようにあります。今から数千年前、湖沼地帯の最奥部で盛んに漁労や貝の採取が行われ、後背地に広がる落葉広葉樹の森は豊かな山の幸に恵まれていたことでしょう。しかも貝塚の下層にはマガキ、ハマグリ、ホタテなど海水性の、上層にはヤマトシジミなど汽水性の貝塚が形成され、海進・海退による自然環境の変化の様子を見事に留めています。

貝塚には多量の魚骨や貝類のほか、活発な漁労活動で使われた釣針や銚なども出土しています。また骨角器や完形土器などもあり、貝塚が単なる捨て場ではなく、「送

り」儀礼の場であったことを示しています。精巧に作られた骨角製飾り櫛は、この貝塚を象徴する逸品として有名です。居住域からは、明らかに埋葬された幼犬の全身骨も出土しています。近くの二ツ森貝塚館では理解をより深めることができます。

▼「北海道・北東北の縄文遺跡群」ホームページ

<https://jomon-japan.jp/>

菊池 徹夫

早稲田大学 名誉教授
縄文遺跡群世界遺産登録推進
専門家委員会委員長



(写真・左) 二ツ森貝塚 全景 出典：JOMON ARCHIVES
 (写真・中央) 二ツ森貝塚 貝層 出典：JOMON ARCHIVES (七戸町教育委員会撮影)
 (写真・右) 二ツ森貝塚 鹿角製櫛 出典：JOMON ARCHIVES (青森県埋蔵文化財調査センター所蔵、田中義道撮影)

む つ 小 川 原 I N F O R M A T I O N

ご視察に関するお問い合わせ

むつ小川原開発地区は首都圏や関西圏からの日帰りビジネスが可能です。弊社にて現地案内を承っておりますので、ぜひ一度ご視察ください。お問い合わせは下記〔編集・発行〕に記載の連絡先へお願いいたします。また、[視察モデルコース](#)をホームページにてご紹介しております。

むつ小川原だより Vol.9

[編集・発行] 新むつ小川原株式会社(SMO) 企画営業本部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館20階
 TEL 03-5218-0062 Email SMO62_kikaku@shinmutsu.co.jp

◎立地企業の皆様へ◎

むつ小川原開発地区での取組みを「むつ小川原だより」で発信してみませんか。ご希望の方は上記電話番号またはメールアドレスへぜひご連絡ください。

